イーハトーブ

関西岩手県人会報　　19号

2012年2月15日発行

関西岩手県人会
〒530－0001　大阪市北区梅田1丁目３番１－900
大阪駅前第1ビル９階　岩手県大阪事務所内
Tel ＆ Fax　06－6344－5969
発行代表者　鎌田　龍児
編集代表者　松坂定徳

平成２４年新春懇親会にぎわう！　上野副知事出席

平成 24 年 1 月 22 日、例年通り大阪市北区西天満の「スーパードライ　梅田店」（八幡勝栄常任幹事のお世話）にて総会および新春懇親会が開催されました。今年は来賓を含めて 89 名の出席があり、昨年の 81 名を上回り盛会でした。

＜総会議事内容＞

藤井　勝副会長の司会で開会が宣言され、議事に入る前に、黙祷して東日本大震災犠牲者のご冥福をお祈りしました。最初に鎌田龍児会長の挨拶があり、「東日本大震災に際し義援金や街頭募金活動などで、約 700 万円を岩手県に贈れることになったことは、会員のご協力の賜物であり“感謝申し上げます”と述べました。以降、慣例により鎌田会長が議長に選出され審議に入り、熊谷克己事務局長（兼副会長）から議案について以下のような説明がありました。

Ｉ．第１号議案　平成 23 年度事業報告、同決算報告

平成 23 年度事業報告は、東日本大震災中心の活動報告が大半を占め、内容は下記のとおりである。

１．東日本大震災関連

(1)　義援金、街頭募金活動

＊東北各県人会へ共同街頭募金活動の働きかけ

・鎌田会長の指示により、3 月 16 日(水)山形を除く東北各県人会に声をかけた。その結果、近畿福島県人会より賛同が得られ、後に近畿宮城県人会も加わり三県合同街頭募金活動が実現した。

＊街頭募金活動の回数と募金額

・三県合同街頭募金は、大阪難波、大阪梅田などで、5 回行った。（議案書参照）

＊会員への義援金募集、会員外からの義援金

3 月 16 日（水）に会員に義援金の依頼状を発送、また、ホームページでも募集した。会員外からは 4 月 28 日に秋田県人会から¥100,000 が寄せられた。その他、近隣の知人、所属同窓会から託されたもの、また直接県人会に持参するものなど多くの義援金が寄せられた。

平成 23 年 12 月 31 日現在の義援金総額は下記のとおりである。

会員より	¥2,062,000
一般より	¥1,260,449
街頭募金	¥3,855,435
合　計	¥7,177,884

（このうち、¥6,775,093 は 4 月 21 日、7 月 13 日の 2 回にわたり送金済）

(2)　県人会報イーハトーブ、震災特集号の発行

未曾有の大災害を記録するため、4 月 13 日　震災特集号、「東日本大震災、街頭募金に支援の輪広がる、故郷は必ず立ち上がる」。5 月 25 日　震災特集第 2 号　「東日本大震災、会員の義援金に感謝、故郷に力強いエールを送る」。12 月 14 日のイーハトーブ 18 号にも、「よみがえれ三陸、大震災を乗り越えて」との題で、多賀谷真吾氏寄稿の現地ボランティア活動の記録を掲載した。

(3)　岩手の震災現地視察報告会の実施

5 月 12 日、松坂定徳氏と佐藤耕吉氏による、建物被害、親類縁者･知人の被災状況や奇跡の一本松など状況報告会を、三県合同会議室で開催した。

２．定例活動

(1)　部会活動

宮沢賢治忌法要への参列（延暦寺 9 月 21 日）は、台風 15 号の接近により取りやめとなったが、アテルイ・モレの法要（清水寺 11 月 12 日）は快晴に恵まれ、過去最多の 120 名の参列を見た。北東北ゴルフコンペ（10 月 5 日、山の原 GC）は岩手が 2 位となった。桐の会は 12 名の出席であった（11 月 21 日、京都）

(2)　懇親会活動

4 月に予定していた京都でのお花見は、3 月 11 日の東日本大震災の発生により自粛したが、7 月 24 日（日）の三県合同納涼ビアパーティには 119 名の参加があり、岩手から 49 名で盛会であった。

(3)　高校野球、ラグビー応援

春の選抜高校野球は出場なしであったが、夏の甲子園には花巻東高校の激励会、試合応援に出向いた。年末の全国高校ラグビー大会は黒沢尻工業高校を激励、応援した。

３．平成 23 年度収支決算と監査報告

昨年度の収支決算の特徴は東日本大震災関係の支出が多かったことで、次年度繰越金が約 11.5 万となり、昨年の 26.7 万より大幅に減った。監事を代表して鈴木政人氏より「問題なし」との報告があり、第 1 号議案は拍手をもって承認された。

Ⅱ．第 2 号議案　平成 24 年度事業計画および予算

活動の基本的考え方として、①郷土のニュースを県人会報イーハトーブとホームページを活用して伝える。②義援金募金活動は継続して取り組む。③京都岩手県人会、青森･秋田県人会、更には東北 6 県も視野に入れて情報交換を密にする、を掲げた。昨年中止した京都のお花見会や三県合同納涼ビアパーティを開催する。県人会報イーハトーブの発行は 3 回を予定。なお、来年は役員改選にあたり、年内に次期役員の推薦を予定している。その他はほぼ例年通りで、第 2 号議案も拍手で承認された。

Ⅲ．質疑・応答

山本幸子会員より「最近若い人が結構入会しているが、なかなか行事に参加できない。若い人向けの企画を考えて欲しい。また、収入の面で、ホームページに広告を載せてはどうか」との要望、意見があった。熊谷事務局長から「昨年にお年寄り向けの敬老企画を考えたが、震災のため取りやめた。なかなか良い案はないが、ご指摘はホームページの件も含めて、今後の企画に反映させたい」との返事であった。

＜震災特別行事、「岩手への支援体制について～現状報告とこれからの支援について」・・・多賀谷真吾氏

多賀谷真吾さん

総会議事終了後、上記演題で多賀谷真吾氏の講演があった。多賀谷氏は、県人会員の写真家で、住民票を岩手に移して、岩手の自然の撮影をする一方、三陸各地でボランティアとして、精力的に活動している。お話の大筋については、県人会報イーハトーブ 18 号（2011 年 12 月 14 日）を参照されたい。

これからの課題は「心の問題」である。仮設店舗には、人恋しさに人の輪ができる。写真集「いわて旬華愁凍ーイーハトーブの国から」は、出版社も驚く 1000 部完売をみたが、「その写真集が流されてしまって、お世話になったボランティアの人たちに、ガレキの山でなく、美しかった風景を見てもらいたかった」と残念がる人がおり、再出版を考えているとのこと。阪神･淡路大震災で多くの支援を経験した神戸消防署や兵庫県警が、震災後すぐ、被害の分からないうちに出動し、北陸道を通って真っ先に現地に入ったという。関西人の心意気に感じ入ると共に、「人との絆」を強く感じたと述べられた。大変印象に残るご講演でした。

＜平成 24 年度新春懇親会＞

熊谷副会長の司会の下、まず全員で東日本大震災犠牲者のご冥福を祈り黙祷をいたしました。

次いで鎌田会長の挨拶がありました。（別稿）ご来賓の上野善晴・岩手県副知事、神田真英・法善寺副住職と青森・秋田県人会ご代表をご紹介の後、「大震災に関しては、ふるさとを思う皆さんの厚い心に感動した。震災の募金活動を通し会員の結束が強まった。ふるさとへの思いが強い 34 名が新しく入会した。震災を風化させてはいけない、顔を上げて前に進む一年にしましょう」と述べた。

次いでご来賓として、はるばる岩手から来られた上野岩手県副知事がご挨拶され（別掲）、関西岩手県人会が取り組んだ、震災復興支援に向けての様々な活動に感謝のお言葉がありました。また、震災復興に関する岩手県の現在の課題と今後の見通し、および平泉の世界遺産登録、県内自動車産業への期待など明るい話を交えてお話くださいました。もう一人のご来賓ご挨拶は、義援金や街頭募金について多大なご配慮をいただいた法善寺の神田副住職で、「いろいろな宗教、宗派があろうかと思うが、法善寺ではお話の前にお念仏を唱える」と前置きし、東日本大震災でお亡くなりになられた方のご冥福をお祈りしつつお念仏を唱えられた後、以下のようにお話されました。法善寺には水掛不動尊の「ゆるキャラ」である「お不動くん」のキャラクターがあることを紹介され、みんなで横に手をつないで、それを上げ下げする「お不動さん命令ゲーム」をなさいました。これを例にとり、一人ではなかなか出来ないことも、皆様と共に手をつなぐとしっかり出来る。これは復興においても同じ。手に手をとっていただく、このことが「絆」であり一日も早い復興につながってゆく。法善寺では本年 3 月 11 日に震災一周忌法要をする。皆さんのいろんな意見を参考に、ボランティアなどを継続し復興に向かって頑張る、とお話になりました。

法善寺副住職　神田眞英さん

その後、鎌田会長から上野副知事に対し、県人会が預かっていた未送金の義援金目録を大きな拍手と共に贈呈いたしました。

上野副知事に義援金の目録贈呈

乾杯は深田稔副会長の発声により行われ賑やかな宴が始まりました。話が弾むように席順は出身地域ごとに割り振られておりました。

深田副会長の発声で乾杯

しばし歓談の後、余興の一つとして、今年は堯　律子前会長のご配慮で「どんぐりコール」の専属ピアニスト、金丸静志氏の華麗なピアノ演奏を聴くことが出来ました。次いで恒例のカラオケが始まり、ひとしきりのど自慢の披露があって、次にこれも恒例となった抽選会が始まりました。今年は「3千円の商品券」20本と鎌田会長のご友人が丹精込めて作られた「ひとめぼれ2kg包装」が8本でした。くじに漏れた方にも参加賞として「岩手県産品のお土産」が用意されておりました。

終盤になり、京都在住の及川光夫氏（本会会員、京都岩手県人会　会長代行）から、春のお花見を京都円山公園にて行うとの予告がありました。「京都のお祭り好きが準備しますので、皆さん多数の出席をお待ちしています」と呼びかけました。

最後に藤原照雄副会長による中締めにて三々五々散会となりました。

懇親会場の脇に置いた、震災育英資金の募金箱には後日数えたところ、¥29,288の義援金が入っておりました。また、鈴木綾子氏が、近隣より託されて持参した募金は、硬貨のみで¥7,765でした。堯前会長が企画、製作されたCD(どんぐりコール＆Friend全9曲)を¥1,500で販売しました。たくさんの方に購入していただき、後日、堯前会長より売上金¥110,000が「いわて学び希望基金」に寄付されました。皆さんの温かいお気持ちに感謝いたします。

また、多賀谷真吾氏の写真パネル4枚のうち、2枚を林信幸氏および松浦勝美氏にご購入いただきました。この売り上げ¥20,000は、多賀谷氏より関西岩手県人会に寄付されました。ご厚志ありがたく頂戴しました。

[鎌田会長挨拶]

皆さん新年おめでとうございます。震災からまだ10ヶ月で「新年を祝う気持ちになれない」という方もいらっしゃるかと思いますが、会員の皆さんが、たくさん元気な姿をお見せいただいたこと、素直に喜びたいと思います。本日は、お忙しい中を、岩手県副知事の上野善晴様のご臨席をいただいております。また、水掛不動尊でおなじみの法善寺から神田真英副住職様にお越しいただいております。法善寺さんには、私どもが街頭募金の場所で苦労していた際、「是非うちの境内を使ってください」との申し出をいただき、ありがたく使わせていただきました。それから、法善寺さんが行う「托鉢や灯篭流し」などで集まった義援金を、私どもの県人会に託されるなど大変お世話になっております。改めてお礼申し上げます。それから、県人会の三県合同事務所で一緒に仕事をしている青森県人会の須郷満会長、秋田県人会の三浦昭爾副会長にもお出でいただき、ありがたくお礼申し上げます。

私どもは震災が起こってすぐ行動を起こしました。大変心苦しかったのですが、県人会の皆さんに義援金をお願いしたところ、なんと206万2千円という大変重い義援金をお寄せいただきました。私は「ふるさとを思う皆さんの厚い心に触れ目頭が熱くなりました。大変感動いたしました。そして寒い風の吹く中、大阪、神戸で行った街頭募金にもたくさんの方にご協力いただいて大変ありがたく思っております。こうした活動を通じて、県人会員の結束がひときわ強まったと実感しております。今度の震災では「ふるさと岩手との関わり、人とのふれあい、助け合い、きずな」など、いろんな形で皆さんお一人お一人関わりがあったと思います。そんな中で「岩手のために何かお役にたちたい」という方が、県人会のホームページにアクセスしていただき、そのうち34名の方が新しく県人会員となっていただきました。本当にありがたく思っております。今日、初めてご参加の方がいらっしゃいますが、どうぞよろしくお願い致します。これから大切なのは「震災を風化させてはいけない」ということだと思います。その意味で、私どもは、ふるさと岩手に継続して支援していきたいと思っております。今日も会場に、震災児のための育英資金となる義援金箱を置いております。役員会では、これからも「いわて学びの希望基金」に援助していくことを決めております。毎年このような形でやりますので、少しでも結構です、金額の問題でなく、小さいことでも継続していくことが大切だと思います。ご協力いただければ大変ありがたく思います。私たちは6000人を超える方々が亡くなられたり行方不明になっているという事実、そして、すべてを失いながらも、仮設住宅などで、厳しい寒さと闘いながら何とか立ち上がろうとしている人たちがいることを、決して忘れません。私たちは被災した方々に寄り添い、この関西から元気を届けていきたいと思います。「顔を上げて前に進む一年にしましょう」　ありがとうございます。

[上野善晴　岩手県副知事のご祝辞]

祝辞：上野善晴副知事

本日は関西岩手県人会の新春懇親会がこのように賑やかに開催され、震災の後で大変な方々がたくさんご縁戚にいらっしゃる中で、「前を向いて･･･」ということで、すばらしい会が開催されますことを心からお祝い申し上げます。

先ほど鎌田会長のお話にありましたが、関西岩手県人会におかれては震災復興支援に向けて、有志の募金活動

あるいは義援金といった形でのファイナンシャル活動のみならず、いろんな形で岩手県の経済活性化あるいは岩手県民の方々に対するサポートを、非常に力強くやっていただいております。また、平静は例えば高校野球、ラグビーの応援などご支援をいただき、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

さて、震災からの復興ですが、少し時間をお借りしてご報告とお礼を申し上げます。岩手県では昨年 8 月に、県の復興計画を作り議会の承認をいただいております。更に１２の沿岸市町村の復興計画をそれぞれの市町村でご議論いただいて、去年の 12 月までに計画が出揃っております。現在の課題あるいは今後の見通しについて簡単にお話します。県の計画ではやらねばならないことが沢山ありますが、三つに分けて整理しています。一つは「安全確保」、二つは「住民の生活再建」、三つは「地域の経済再建（産業再建）」です。「安全確保」は何といっても「防潮堤の高さをどの程度にするか」が安全の前提ですので、これについて各地域で議論して、去年の１０月までに高さあるいはどういう形にするか、住民の意見を聞いて県の方で考えをまとめております。工事の日取り、これを受けて今それぞれの地域で独自の規格、例えば８ｍと決めても地域によってはそこまで出来ない、その場合は代わりに防潮堤の内側にどういう施設を作るか、あるいは高台に移転するか、住宅地に嵩上げの土を盛るか、そのようなことを今各地域で議論していただいております。「生活再建」については、岩手県では避難所は既に解消して、仮設住宅が一万四千戸建設されました。寒さ対策は 10 月までに終えておりますが、それでもかなり寒い。われわれとしては出来る限り本格的な災害復興住宅を建設すべく検討に着手しており、3 年間で 4000～5000 戸必要と見ています。他方で自分の家を改修して住みたい方がおり、むしろこちらが多い。この場合はどこに作るか、費用はどうするか、など被災者のサポートの問題があります。どこに作るかについては、市の当局と相談して高台移転も一つの選択肢ですし、いろいろ検討した結果少し小さくしてその地域に残る選択肢もあります。いずれにしろ、ファイナンシャルサポートが必要で、国の方で「生活再建支援金」を用意しているが、それだけで十分か？というわけで、県の方では新築あるいは補修する方に財政補助を検討し、県議会でご審議あるいはこれからも検討することにしております。「地域経済再建」については、一つは「仮設店舗」がかなり出来上がってきています。もう一つは「事業補助」として、国が 2／4、県が 1／4 を出すことにしている。普通は民間企業が被災した場合、国が補助することはないが、今回はそれをやらないと立ち行かない、ということで、現在までに 3／4 に相当する部分を既に 3 回募集しており、420 億円をもう措置することを決め、それぞれの企業に通知しております。これで大体沿岸地帯の核となる大きな企業、水産加工団体あるいは宿泊施設など、かなりの部分がこれらで再建することが決まっております。勿論、地域には小さな企業、零細企業がまだまだ残っておりますので、こちらは県単独で支援することにしています。

一方、明るい話もあります。一つは平泉の世界遺産登録です。昨年 6 月に決まりましたが、その 3 年前には延期があり気を揉んでいたのですが、見事登録されました。これを平泉だけでなく岩手県全体に押し広めよう、岩手県全体に大阪から関西からあるいは首都圏から来ていただこう、というキャンペーンを張ろうとしています。奇しくも今年の 4 月から 6 月に、JR が岩手県だけを対象とした「デスティネーションキャンペーン」を計画している。この期間を観光の面で定着的な期間として、日本中からあるいは世界中から岩手県に来ていただくための、いろいろな工夫をしていこうと思っております。

産業面では関東自動車が新しい車種「アクア」、ハイブリッドでトヨタの救世主といわれますが、これをラインもフル稼働で造るということで、県南地区を中心に自動車関連が賑わっています。トヨタ全体としても東北にシフトさせる姿勢があり、宮城県の岩手に近いところでトヨタの製造拠点が決まりつつあります。自動車産業の東北の中心は実質的には岩手県と思っておりますので、トヨタの東北シフトは岩手県にとって非常にありがたい話で期待しているところです。

以上明るい話を二点申し上げましたが、東日本大震災という、これほどの大変な被災は日本の歴史の中で貴重な経験であり、我々がこれを克服していくためには県の計画を早急に達成の必要があり、十年間は待てないという我々の思いがあります。一生懸命地域の方々と前を向いて頑張っていこうと思っておりますので、関西岩手県人会の皆様におかれましても、これまで同様、岩手県の経済、岩手県の被災地の復興のためにお力添えをいただきますよう、心からお願い申し上げます。最後になりましたが、関西岩手県人会のますますのご発展と、ご参会の皆様のご健勝、それから岩手県、特に被災地の復興が一日も早く叶いますよう、心から祈念申し上げ、簡単ですが私のお祝いのご挨拶と致します。本日は誠におめでとうございます。　　深田稔記

左から藤原副会長、上野副知事、藤井副会長

ふるさとの話に盛り上がる

関西岩手県人会

関西岩手県人会

関西岩手県人会

花巻東2度目の春！

第84回全国選抜高校野球大会

第84回選抜高校野球大会の出場32校を決める選考委員会は27日、大阪市内で行われ、一般選考枠で本県の花巻東が選ばれた。 花巻東は昨年夏の甲子園にも出場しており、夏春2季連続出場は黒沢尻工（1977年夏、78年春）以来、県勢として34年ぶり2校目の快挙。センバツの組み合わせ抽選会は、3月15日に行われ、大会は兵庫県西宮市の甲子園球場で、21日に開幕する。県人会ではたくさんの会員が応援に駆け付けてくれることを期待しています。新聞・テレビ等で試合日程を確認し、甲子園球場前高速道路下にお集まり下さい。事務局が待機し、試合開始1時間前から入場券を配布します。花巻東には、津波被害を受けた沿岸出身の選手も少なくない。被災地に「元気と勇気を届けたい」という選手たちの真剣なプレーで、3年前、菊池雄星投手（現・プロ野球西武）を擁して、初陣ながら準優勝を遂げたあの快進撃を再び見せてくれるに違いない。また、監督の佐々木洋教諭が、2011年度文部科学大臣優秀教員表彰に選ばれたのも、花巻東にとっては2重の喜びとなった。

黒沢尻工ベスト8ならず

第91回全国高校ラグビー大会は、1月1日、東大阪市の花園ラグビー場で3回戦8試合を行った。本県代表で3年連続26度目出場の黒沢尻工は、御所実（奈良、4年連続7度目）に計6トライを奪われて14－32（前半9－22）で敗れ、22年ぶりのベスト8進出は果たせなかった。黒沢尻工は前半8分、SO千葉一志（3年）のPGで先制。12分にトライを返されたが、17分には再び千葉一のPGで6－5と逆転した。FW陣の奮闘が相手のミスを誘い、前半途中までは競り合った。しかし、重量FWを擁する相手のモール攻撃を止められずに、前半で4トライ、後半も2トライを奪われた。攻め込みながらも厚い防御に阻まれ、終了間際の後半29分にナンバー8藤原俊春（2年）が左隅にトライを返すのがやっとだった。

—岩手日報ＷＥＢ版より—

事 務 局 掲 示 板

新入会（敬称略）

山田清敬（盛岡市）　梶村征洋（一関市）
高橋弘美（花巻市）　澤田紗生（盛岡市）

編集後記

「復興庁」がようやく立ち上がった。発生から 11 か月も経って、今頃何が復興庁だ・・と感じるのは編集子だけだろうか？後藤新平が関東大震災の翌日、すぐさま「帝都復興院」に着手したのとは、あまりにもかけ離れている。この遅れのために、どれだけ多くの被災した人々が、市町村が歯噛みするような苦悩を味わってきたことか・・この間、永田町から聞こえてきたのは、被災地を置き去りにした政局に持ち込もうとする動きやお粗末な大臣の言動だった。岩手選出の平野達男大臣には、地元目線のスピード感を持った活躍を期待したい。（龍）